

## 令和4年度第2回岡崎市観光基本計画推進委員会 記録

1 日 時 令和5年2月17日（金）13時30分～16時00分

2 場 所 岡崎公園

3 委員（敬称略）

出席者：高橋一夫、八木則行、竹内博剛、西尾孝志、石田浩美、中林菜穂子、杉山琢士、川辺泰正

欠席者：山中賢一、新家智明、小川敦司、野村顕弘、長瀬正明

第2次岡崎市観光基本計画(素案)に対する意見・提案を書面で提出した者：  
高橋一夫、山中賢一、新家智明、八木則行、竹内博剛、西尾孝志、野村顕弘、石田浩美、中林菜穂子、杉山琢士、川辺泰正

4 オブザーバー（敬称略）

欠席者：榊原仁、靱井泰晴

第2次岡崎市観光基本計画(素案)に対する意見・提案を書面で提出した者：  
榊原仁

5 事務局

経済振興部長：鈴木洋人

観光推進課長：加藤健一郎

同課観光推進係長：清水里美、同主任主査：杉浦美穂

6 内容

(1) 観光施設の視察（どうする家康 岡崎 大河ドラマ館、岡崎城等）

(2) 第2次岡崎市観光基本計画(素案)の検討

7 傍聴者

なし

8 議事要旨

—開会—

(1) 観光施設の視察（どうする家康 岡崎 大河ドラマ館、岡崎城等）

【視察した委員の感想等】

●大河ドラマ館について

○「三河武士のやかた家康館」の新しくなった常設展示は、質・量ともに観光客にとって見応えがあるものと思われる。

○常設展示を間に挟んでいることで、これまでのドラマ館とは違ったものにな

っている。浜松・静岡のドラマ館とは違いが出せるものと思われ、旅行会社等へのプロモーションがしやすいのではないか。

○俳優のパネルや大河ドラマで登場する小道具展示は、ファン向け、女性向けに強力なコンテンツになっているようで、相乗効果がよく表れている。

○次年度以降の展示の在り方について考察し、ポスト大河ドラマに備えることが必要だ。

○パネルや展示物等によりじっくり学べる部分と、音や映像により臨場感を持って体感させる部分がバランスよく組み込まれており、「松潤・大河ファン」も「歴史ファン」も非常に楽しめる内容であると感じた。スタッフも各所に配置されており丁寧な案内でスムーズに見学することができた。

○ドラマの出演者それぞれにクローズアップされていて、非常に良かった。撮影パネルやスポットも多く用意されていた。ドラマの進行にあわせて展示内容もアレンジがあると今後さらに良くなっていくと感じた。

○毎週末、岡崎公園に行く。とてもにぎわっているのを見ると、大河ドラマを通して岡崎市に興味を持って来岡する方々の多さに嬉しく思う。

○三河の歴史や大河ドラマにでてくる徳川家臣団がわかりやすく展示してあり見応えがあった。また、リニューアル前からある関ヶ原合戦のジオラマもアニメーション付きで見やすかった。

○ドラマ館のアフター大河はどうなるのか気になる。来岡する観光客リピーターを獲得するのに年間パスポートの発行を検討してもいいのでは。

○岡崎公園は広くて散歩には気持ちのいい場所だが、砂利も多く駐車場からドラマ館や岡崎城まで歩かないといけないので足の不自由な方や高齢者の方は歩いていけるか心配になる。ドラマ館には貸出用の車いすが1つあるとのことだが予約が必要だし来場者が多いので台数を増やしていただきたい。

○館内はわかりやすくドラマの参考になる。

○家康関係資料がりぶらにあることを示してはどうか。

## ●岡崎城について

○従来とは違う展示で、わかりやすいものになっている。

○スペースが広くないことあるいは予算の関係もあってと思うが、再現展示ができなかったのは残念だ。

○岡崎城の特徴や刀剣の美しさなど従来の「静」のお城から始まり、タブレットでのAR説明や没入感のある美しい映像と音楽で一転して「動」の世界に引きずり込まれた後、天守からの景色に圧倒される。歴史とテクノロジーを融合させた新しい展示のカタチになっており、年代を問わず楽しめる場所になっていると感じた。

○お城である以上やむを得ないかもしれないが、狭い階段を昇り降りしなければならぬので、高齢者や身体の不自由な方の見学は苦勞するであろう点は残念な気もする。

○最上階のスペースに何か目玉の展示があると、より楽しめたと思う。また、展望エリアは東西南北にそれぞれ設置されている地図がもう少し情報量が多いと市内の方も市外・県外の方も、より楽しめると思う。

○天守の展示は岡崎城の成り立ちがわかりやすい。全国ベスト10に入る入場者を目指してほしい。

○バリアフリー化をしてほしい。

○岡崎の歴史をより深く、楽しみながら学ぶことができた。

○残念な点は、高齢者の方や足の不自由な方が見学できないところ。お城はどこも急な階段のイメージで、建物の構造上難しいと思うが足の不自由な方が一生懸命階段を上っているのを目の当たりにしたので改善ができないか検討いただきたい。

### ●その他

○土産物の商品開発が進んでおり、観光消費への落とし込みがしっかりできていることは評価できる。こうした商品開発が市内事業者を中心にできるようになってくると、観光の波及効果がより高くなる。

○今回の視察は2月の金曜日（平日）であったが、一定数の観光客、観光バスが来ており、マーケティングの効果が表れているといえよう。

○今後の春・秋の観光シーズンへの対応を強化することで、より高い評価につながることを期待したい。

○公園グラウンドに設置されたモニュメントや食事スペースに人がほとんどいなかったので人流をつくる仕掛けも必要だと思う。（視察が平日の午後であり普段は賑わっているのかもしれませんが。）

○ドラマ館や岡崎城を楽しんだ方が、実際に岡崎のまちで歴史に触れるような仕掛けがあるとよい。例えばクイズラリーやスタンプラリーなどまち歩きにつながる企画があれば岡崎市にある歴史を知ってもらえる機会になるのではないか。

## （2）第2次岡崎市観光基本計画（素案）の検討

現時点での第2次岡崎市観光基本計画（たたき台）に対し、意見・提案を書面で提出するよう依頼した。

### 〈基本戦略〉

- 01 アフター大河への展望
- 02 岡崎ファン（リピーター）の獲得
- 03 若者交流人口の流入促進
- 04 観光の継承と市民の自分事化
- 05 観光マーケティングの精緻化

### 〈基本施策〉

- 1 シン岡崎観光「もっと岡崎、きっと家康ツーリズム」

- 2 若者流入促進「カモン若者ツーリズム」
- 3 未来へつなぐ「サステナブルツーリズム」
- 4 GOTO岡崎「オリジナル観光マーケティング」

#### 【委員、オブザーバーの意見・提案】

##### ●基本戦略について

○基本理念に記述されている、観光消費とつながった考え方や集客のためのコンテンツの充実という方向性は共感。

○経済的価値を創るとともに、社会課題に解決を進めるという考え方は、「共通価値の創造（CSV）」の概念にも通じており、今後の観光のあり方として理解できる。

○総花的な計画から「施策の選択と集中」への方針にも共感。

○今後コロナの収束に従い、インバウンド観光はコロナ以前の状況に戻ることが予想される。それに対し、市としてどう取り組むかが盛り込まれていない。現状では海外観光客の来岡動向が読み切れない所もあろうかと思うが・・・基本施策4⑤には記述がある。

○当市の歴史的文化資産に関係する全国各地のゆかりの地とのネットワーク構築と観光交流の創出は重要であると考え。基本戦略に盛り込んでいただきたい。

○岡崎市は、歴史、文化、食、教養、スポーツ、農工商など様々な分野で高い水準の観光資源を保有している。あらゆる層を幅広く観光誘致の対象とできる反面、全体的には総花的な計画になりがちであるが、基本戦略においては「誰に」「何を」「何のために」推進していくかミッションが定められているところが良いと感じる。

○大河ドラマを1年だけで終わらせない戦略と若者をターゲットにしてきた観光推進のさらなる進化を期待したい。戦略内にある観光都市としての市民意識の醸成はとても大切になってくると思う。自らのまちに誇りを持つこと目的に、様々な分野や角度からの戦略（調整）が求められる。また、オーバーツーリズムへの懸念を考慮しながらも、観光推進との両輪を持って、受入れの整備を行っていただければと思う。

○これで問題はないと思う。

○アフター大河に向け、家康公、家臣団だけでなく①「岡崎に伝わる伝承話」、例えば市内中心の甲山は巨大な古墳、ヤマトタケルが神のお告げにより敵の兜首を埋めた伝説をもとにウォーキングコースを作ったり矢作に伝わる牛若丸と浄瑠璃姫の悲恋話などを魅力的に発信していくことにより周遊してくれる「ネタ」を観光客にアピールしていく。②「戦国だけに頼らない歴史」文化財だけでなく市内の寺社仏閣、教会や建造物で言えば近代遺産（例：六供配水塔の景色、バリエーション多岐の市内の丘陵、坂道の風景など）も取り入れる。）若者の流入においてはオーバーツーリズムにならぬよう地元の理解を得るため気を使う必要はある。どこの観光地においても地元理解が問題にはなっ

ている。恩恵を受けない市民、事業者にとっては「ただの迷惑」ととらえられる。

○04の冒頭に課題として記述がある観光に対する市民の「自分事化」は、小さなようで、非常に大きな課題だと考えられる。地域経済を元気にする産業としての観光はとても重要だが、それを継続して支えていくには、地域の風土として、市民の観光リテラシーのレベルを上げ、産業観光と両輪で進めていく必要がある。来てお土産を買って帰るだけの観光なら、魅力的な土産品開発で良いでしょうが、岡崎を好きになって、リピーターとなったり、発信してもらうには、岡崎で接した人を含めて好きになってもらう必要があると思う。

○01：大河ドラマ館の開催期間以降も岡崎城・大樹寺などへの関心が持続するような取り組みを期待している。せっかく全国的に知名度が高まり岡崎城もリニューアルしたので、この勢いがなくなってしまうのは残念である。

○02：時代は団体から個人にとあるが、今でも自治会・町内会・婦人会などの小旅行の需要はある。地元観光関連事業者との協力で団体客がより訪れてくれればよいと思う。

○03：若者の岡崎観光の姿をよく見かける。特に飲食店やイベントに集まる人が多いと思われる。若者誘客コンテンツの開発・提供を期待している。

○04：難しい課題だが、10年後・20年後の岡崎を考えていく上で無視できないものだと思う。

○05：個人の旅行者の更なる獲得に向けて「目的」「ターゲット」「自身の強み」などといった細分化は必要だと思う。

○01：家康公と三河家臣団を中心とした本市の重厚な歴史を丁寧、かつ、魅力的に発信する取り組みを推進するという点について、非常に期待する。家臣一人ひとりにも焦点を当て、出生地、活躍舞台、屋敷跡地などを史跡として整備していただけたらと考える。大河ドラマでのストーリーや映像をもとに、特産品開発に役立てるなど、今後の岡崎PRに利用してもらえたらとも考える。

○家康公他の映画製作の誘致など、撮影協力、ロケ協力などで本市をPRすることも検討してもらいたい。

○武将隊とは別に忍者隊を結成し、世界的に高まっている忍者ブームに対応してもらいたい。服部半蔵の出生地などをPRすることなども検討してもらいたい。

○自然と調和した歴史文化都市を目指す。自然＝山地と水源、歴史＝家康と家臣団、文化＝サイエンス、石工、みそ文化など。

○20年後の家康公生誕500年を見据える施策の継続。

○05の「観光マーケティングの精緻化」は「観光マーケティングの推進」に修正を。観光マーケティングを精緻化しても、観光戦略には活かさない。観光データは各種の手法を用いて活用するものである。また、説明について、次の修正案を検討していただきたい。「多様な関係者と上質な観光サービスを生み出すために、観光客の行動に関するビックデータの分析やAIなどのデジタル技術、さ

らには、統計データやアンケート調査などを活用した、観光マーケティングを推進します。」

●基本施策について

○基本施策のそれぞれのテーマや個別事業について、実現のために具体的にどうするかが重要。今後話をうかがいたい。

○個別事業の具体化にあたっては、関連業界へのヒアリング（岡崎市内に限らず、東京・名古屋・大阪の事業者）を行っておくべき。ポストコロナの状況を知り、彼らがどういう戦略を打ち出そうとしているのかを施策の中に組み込むことが求められる。

○1の⑥：「歴史観光サインの最適化」とあるが、来訪者に対する「道標」「史跡の説明」等の事か？「サイン」では分かりにくい。

○3の⑥：西三河に拘らず、隣接する市町との連携強化が必要かと思う。例えば蒲郡へのクルーズ船停泊に伴う観光客の岡崎、豊田（トヨタテストコース、工場視察）誘導。（商工会議所・観光協会レベルでは蒲郡、西尾と連携し三河観光GONを立上げている）

○それぞれのセグメントに応じて何をしていくか計画されているが、実際には観光客は一つの要素のみを求めて来訪されるとは限らず、多くは複数の要素を求めていると思う。イベント開催による一過性のモノ、歴史遺産を活用した継続的なモノ、有名人の聖地巡礼、美味しい食べ物、美しい景観、等さまざまな要素を複数組み合わせることで相乗効果が期待でき、満足度も向上すると思う。

○家康公と東海オンエアを含む若者向けの戦略を中心に、今後もさらなる広がり期待したい。家康公に関して、アフター大河としては、キャスティングが若い世代向けであり、新たな層が興味を持つきっかけとなったと思う。ドラマを契機に新鮮な情報を得た（若者を含めた）視聴者に喜んでもらえる持続的な戦略、企画力が必要になる。

○東海オンエアの影響での観光来岡は確実に昨年夏ごろから伸びている。市内を回遊する仕掛け（パネルやマンホール等）や、滞在日数、時間を伸ばせる取り組みを継続的に行っていただけたら非常に良い。メンバー自身が観光伝道師として発信する岡崎のスポットを沢山取り上げたコンテンツのPRが観光客増加傾向の要因だと思う。更なる戦略を期待したい。

○基本的に良いと思う。岡崎市らしさを出した基本施策だ。さらに持続可能な観光都市岡崎を作るためには、歴史観光ツアー企画・造成されたコースを、観光施設（官民の）を入れた観光コースを作り、観光都市岡崎を旅行業者にキャラバン隊（市内の観光施設スタッフを交えて）を組んで、売り込むことも大事だ。基本施策にもある、岡崎の歴史観光は見る価値があるところが、市内随所にありこれを堀興して魅力あるコースを作って売り込むことが大事だ。さらに言うと前にやっていた大都市への観光PR展を周辺地域の観光協会と組んで定期的にやることも必要と思う。

○観光事業の活性化については、市はいろいろなイベントを行い、他市に比べても充分すぎる企画、努力をされていることは頭が下がる。しかしながら車社会となっている現状では 大河ドラマが始まる前から駐車場不足、道路の狭さに反比例して多くの観光客の流入により警備員などがいないと無法地帯に陥ることがわかった。事前シュミレーションしても予想外の事態に各観光施設事業者の金銭、心身の負担は計り知れない。事故の危険性が増すことにより観光客の評価は落ち、リピート客を呼び込めない。せっかくマーケティングしたり貴重なイベントや企画を考えても「これ以上は・・・」という懸念もあり立ち消えてしまう。問題は道路整備、拡張などのハードの部分ではないかと考える。

○1：徳川家康は外国の方からも人気があるので、外国の方向けの歴史（観光）メニューの作成を加えたらどうか。例：通訳付きガイドツアー（英語、中国語、韓国語等）、外国の方向けの家康講座をツアーに加えるなど。歴史観光サインに英語、中国語、韓国語等を追加する。また、市民意識調査の中から観光客を迎えるためのボランティア参加意向の質問に対して10歳代が多かったため、その世代に対しての観光ボランティア講座などの取り組みはどうか。実際にある小学校では、地元のお祭りなどでガイドボランティアを実施している。自分の住むまちのことを知るキッカケになり、まちへの愛着がより増える機会になると思う。

○3：市外から来た人に気持ちよく接し、岡崎の歴史・文化・自然を伝えられる市民を養成するための「一步先の岡崎おもてなし講座」の実施を個別事業として位置づけたらどうか。また、岡崎の歴史・文化・自然に興味を持つ市民が増えることで地域（市民）の観光発信力も高まり、シビックプライドやローカルラブの醸成に寄与すると考えられる。

○ウォーキングが人気な世の中になって久しいので、最近、下火になっている二十七曲がり歩くメニューを作成して、観光資源としても発信したらどうか。

○東岡崎駅周辺の再開発に関連し、高層の建造物を建てる時には、最上階の北向きに、乙川が展望できるスペースを造り、乙川の河岸段丘の地形や東海道など岡崎のまちの成り立ちが一望できるようになれば新たな岡崎の観光スポットになるのではと期待できる。観光部門からも、都市計画部門に働きかけてみてはどうか。

○1：毎年、岡崎城の桜・藤、花火大会を楽しみにしている方が数多くいる。コロナも落ち着き再び盛り上がることを期待している。

○2：年末の岡崎城のプロジェクトマッピングは美しく迫力ある演出だった。しかし、イルミネーションはあまりなく、キッチンカーも数台のみで、長時間の滞在は難しいものであった。イルミネーションの数を増やし、ホットドリンクを提供するような店を出すのは難しいだろうか。QURUWAエリアは、様々なイベントが催されている。川あそびやナイトマーケットなど楽しく、天気には左右されてしまうが、楽しみにしている方が多数いる。川あそびのパンフレットを小学校で配布されているが、子供が興味を持つイベントなので、ターゲ

ットが当たっていて良い。乙川ナイトマーケットはこれからもっと訪問客が増えてくるだろう。スタンディングテーブルでもいいので、テーブルの数を増やせばもっと居心地よく過ごせるのではないか。大型商業施設に関して、東部アウトレットモールの情報があまり入ってこない。どうなっているのか気になる。また、イオンモール岡崎への無料シャトルバスを欲する声を耳にする。愛知県内のいくつかのイオンモールでは運行があるようだ。土日祝日だけでも運行されれば、駐車場の混雑も緩和され便利になると思う。

○3：難しい課題だが、考えていかななくてはならないものばかりだ。市民の声をよく聞き取り組んでほしい。

○4：多種多様なニーズに応えるため、ターゲットを絞った観光プロモーション、サイト、SNSの運営や協力は必須だと思う。記載されている各種アンケート調査の実施は、いつどのような場面でどのような人に行われるのか。

○2：ナイトタイムエコノミーの推進（イルミネーション、プロジェクションマッピング）は、非常に有効な観光イベントになり得ることを感じた。ぜひとも、映像を多用し、効果的に観光に活用してもらいたい。また、夜を楽しむイベントに力を注ぐことも重要であると考え。若者に人気のカフェ、グルメ、スイーツを活用した観光プロモーションも市民の関心の高いところであろう。飲食店などを対象としたメニュー開発のためのセミナーなどを企画していただけたらと思う。観光、料理、スイーツなどの各分野の専門家を講師として招き、岡崎の地域資源を活かしたメニュー開発、製品化、ブランド化PRの仕方などで、飲食業界を支援してもらいたい。

○3：日本農業遺産（農水省）への認定申請を目指し、歴史、伝統、文化、まつりなどを未来へつなぐことを検討していただきたい。市民の『自分事化』の気運を高めることにもつながると思う。

○せっかくの沢山の家康ゆかりの史跡があるのに十分に活かされていない。

「道のわかりにくさもある」の意見がみられ、自分事化のためにも諸施策が必要である。今後、都市化が進展して景観も変貌することも念頭にすべき。

○3：「オーバーツーリズム対策の推進」の中に、公共交通確保、渋滞対策などが記載されている。公共交通確保、渋滞対策は、観光施設・スポットへの「アクセス手段の確保対策」としても重要な視点であり、別途項目立てをして、自家用車対策、駐車場についても併せて検討すべきと考える。

## ●その他

○マーケティングの立場から、言葉の使い方に違和感がある。「ミッション」は通常「理念」と同義で用いられる。すなわち、岡崎市でなぜ観光振興をおこなうのか、観光が岡崎のまちづくりや産業振興に役立つものか、ということを示す。「ビジョンは」は3～5年後の近未来のあるべき姿を示す。例えば「アフター大河」や「リピーター獲得」「若者交流人・・・」についてはビジョンといえる。「戦略」は、ビジョンに至る方法であり、あるべき姿と現状のギャッ

プを埋めるためには、どうしていくのかを具体的に提示することである。市民が見て分かりやすい、また、科学的に行おうとしている、ということを示すために、言葉の整理はした方がよいと考える。

○商工会議所では、「全国家康公ネットワーク」を通じ、静岡・浜松との視察交流や、「家康公に学ぶ会」主催の家康公検定・作文コンクールへの運営に協力する事で他地域と商工会議所と連携をしている。市に今まで以上の支援を期待している。

○市内の史跡の中には、史実と違っている説明表示、説明表示版自体がない史跡もある。今回の大河ドラマ放送を機に、もっと足元を見直しても良いかと思う。

○伝統工芸については、「匠の会」をもっと活用をして頂きたい。

○歴史・伝統・文化を感じさせる観光商店街通りの開発設置。

○観光資源の活用として、過疎化が進む中山間地域「岡崎作手清岳線 37 号～千万町豊川線 334 号」の道路整備とロードサイクル専用路を併設することで、市内外からの観光客やアウトドアスポーツ等の利用者の拡大を図る。

○「徳川家康」が活躍した都市はたくさんあるが、産まれた場所は岡崎市だけ。新しい観光スポットは全国どこにでも出来る可能性があるが、貴重な歴史資源は新たに創造できない。これは他所で真似することができない岡崎市にとって最大の強みであると思う。

○観光客にとっては「分かりやすさ」が大切。交通、グルメ、お土産など。「ド定番」なもの、「穴場」的なスポット等のアピールはどれだけやってもやりすぎではないと思う。

○観光の楽しみの一つは地元の人とのふれあいにある。どんなに良い場所でも嫌な対応をされたら悪い思い出になる。「自分事化」という表現はとても良い。誰か特定の人や団体がやる事ではなく、岡崎市民の誰もがおもてなしをするという心を醸成するのが大切。

○最近では、いわゆる「観光地」だけでなく市民が普通に暮らしている場所にもたくさんの観光客が来ている。そうした場合、市民満足度の高い観光はとても重要であると感じる。それがおもてなしにつながる。

○観光イベントのさらなる進化を期待したい。コロナ禍で規模やスタイルに制限があり、アフターコロナとはいえ、コロナ以前と比較し、社会様式の変化は大きいとは思いますが、全国から注目されるインパクトのある事業を期待する。

○武将隊の活用（各施設から岡崎城までバスに乗車して各武将の紹介等）。また、歴史研究家の講座をコースに入れて岡崎市内の歴史あるお寺で語ってもらうなども歴史観光として広く売り込みが出来ると思う。

○東海オンエアの活用。若者を中心に岡崎市を大きくPRしてもらっているが、市内数か所に偏っていると思うので、岡崎市内の歴史的施設のPRをかねて巡回してもらってはどうか。

○岡崎市の現状での観光名所は各所に点在しており、バスの不自由さもありあ

きらめて帰る観光客も多い。市街地と東西南北を自由に結ぶパークアンドライド、コミュニティバスの増設を土日祝日や長期休みに増やすことにより、額田地区まで案内することができるのではないかと。大変な課題ではあるが公共交通機関を増やし車に頼らない仕掛けを作成していくことが必要。まず、駐車場の有無が大変な高評価ポイントになるので空き地を使ったコインパーキング事業を市街地だけでなく郊外にも広げる可能性があるのではないかと。

○ロケツーリズム、テレビ・映画の舞台に誘致。「一人でも多くの関心のない市民を観光事業に振り向かせるか」「協賛を得られるか」今こそ地域コミュニティの力を生かすべきと考える。＝ご近所つきあいのローカルコミュニティから協力を仰いでいくことが必要である。

○大河ドラマや人気ユーチューバーの活躍で岡崎市に観光に来る方は多い中、市民がおもてなしの心を持つのはとても大切である。おもてなし講座の開催などで、観光への意識改革をすることで豊かな観光体験を提供できると思う。また、市民が住みよいまち、岡崎のまちならではの資源を活かしたライフスタイルを作っていくことで地域の魅力になる結果観光も、目指しながらまちづくりを進めていけるといいと思う。

○若者旅行者の自転車レンタル事業・サイクルシェアによる自転車利用度が増していることを感じる。市内を効率的に観光しようと考えた場合、自転車という手段が非常に有効であるように思う。自転車利用により、東岡崎～岡崎城を河川沿いに進み、景色を楽しみながら岡崎を感じてもらえるサイクリングロードもあるとよいと思う。この地域の景観は非常に美しく、自転車のスピードでじっくり楽しんでもらいたい景観でもある。将来的には、乙川の上流方向へも川沿いサイクリングロードを拡充したり、二十七曲りを自転車で周るコースなども検討してもらえたらと思う。

○山間地を中心としたグリーンツーリズムの可能性の調査なども進めてもらいたい。

○全国4位といわれる城郭の広さ(総堀)をもっとアピールすることが中心市街地の活性化につながることから岡崎城を中心とした公園の拡大。例えば浄瑠璃曲輪付近のキャスル広場化、りぶらの一体活用等。

○市民だれでも参加型のウォーキングイベントの開催・定例化。

・ビスタウォーク(大樹寺ー井田野ー伊賀八幡宮ー能見ー城門通ー岡崎城)

・東海道27曲りウォーク(げんき館ー籠田公園ーりぶらー岡崎城ー矢作橋)

○家康公ゆかりのスポット設置(寺社、城址、古戦場、伝説等)、WEBや地図の活用。

○東部山間エリアを中心としたトレッキングルートの研究と整備。

○岡崎だけの観光でなく周辺都市と広域観光連携の推進。ネオパーサにスマート出入口を設け、東部へのアクセス強化を提案。

○観光戦略は、市内だけで完結するのではなく、近接市町や名古屋市に訪れた人、名古屋市民などを、岡崎市に誘客、また、相互に行き来することができる

ような、観光ルートを作ることが必要と考える。

○岡崎城を核とした他市町を結ぶまちづくりルートや、岡崎城泊、寺泊などを結び付け、さらには、豊かな自然を活用し若者や欧米人等に人気のアドベンチャーリズムを彷彿させるルートなどについて造成し、オリジナルな観光をPRし、岡崎市の高付加価値を生み出してはどうか。